



ことわざはいつどこでできたの

幸せな生活のための神のことば

昔、人々がまだろくにことばを話さずに、意思を伝え合っていた時代に、村にはときどき聖人がたずねてきて、平和で幸せな生活がいとめめるよう、いろいろなアドバイスをしたり、自然へのはたらきかけをしてくれたりしました。そのとき、聖人がとなえたことばが人々の間に伝わり、ことわざのもととなったといわれます。

そのことばは、とてもたくさんあったはずですが、しかし、むずかしくてわからなかったり、とちゅうで忘れられたりして、多くのものが消えてしまったはずですが、残ったものは覚えやすいもの、ほんとうに人々の役に立つものでした。

そのことばはいつしか歌となり、「歌とことわざ」という形になって、語りつがれるようになったようです。古い文献の中に「わざはい(禍)、わざおぎ(まねく)、わざうた(ことわざ)」ということばが見られます。わざわいをまねくことわざ、となります。わざわいの反対語は、幸いです。

おもしろくて覚えやすいもの

ことわざには「格言・金言」と、いわゆる「ことわざ」があります。前者は、学者や有名な人の書いたものから選んだものが多いのに対して、後者は、わかりやすいことばでおもしろく表現されており、覚えやすくなっています。たとえば「悪銭、身につかず」「たなからぼたもち」などです。ことわざは大昔よりいろいろ変化して伝えられたり、途中で新しく生まれたりしながら、長く言い伝えられているようです。(監修・保岡 孝之)

